

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	(株)やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384-3		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鴨居や木材ドア等雰囲気のある民家の良さを残しながらバリアフリーのホール、手すり、玄関ロープを設置し施設としての機能を融合させている。各居室はゆとりある広さで建物全体は気密性に優れている。新しく大学との定期的なカフェを催し、夏祭りはリモート参加頂き、テレビ取材もあり情報発信している。定期面談を2~3ヶ月ごとに設けホームの生活と地域、家族の繋がりを大切にしている。また医療ニーズには、かかりつけ医、訪問看護ステーション、認知症専門病院と医療連携を取り、その方の身体精神症状に適した個別対応に繋がるよう受診連絡票で情報の共有化に努めている。体調管理サポートの充実24時間緊急連絡体制で安心して生活して頂ける。認知症ケアの拠点として共用型デイを展開し2年目となり定着している。今後は高齢化重度化対応で浴室改修リフト導入して安心安全に過ごして頂き、職員の負担軽減にも繋がりたいと考える。またICT化への取り組みも積極的に進めたいと考えている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_007_kani=true&JigvsoCd=2172400257-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年1月12日

職員の仲が良く、管理者を中心にまとまりのある事業所である。利用者の日頃の様子を観察したり、利用者の気持ちを傾聴し受け留めてようとする姿勢がみられる。その情報を職員間で申し送りやミニカンファレンスにて共有し、利用者がここでの生活をどうすればもっと暮らしやすくなるかを考えている。今年度の施設の目標はスピーチロックを減らす取り組みをしている。管理者やリーダーが中心になって職員全員がお互いに注意しあって言葉による拘束を減らしている。行政や自治会・近隣住民、保育園などの子供たちなどとの関係性も良好である。2年前に開設した共用型デイサービスを展開したことにより、在宅サービスの新しい視点での見方ができるようになり、職員が介護のプロとして成長し続けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で考え作成した理念を掲示し「住み慣れた地域で暮らし続けられる」を念頭におきスローガンと共に毎朝唱和し日常の業務の中で振り返りの基としている	利用者の個々の生活と共同生活のバランスをとりながら、利用者が心地よく生活し続けられるように、各職員が得た情報や感じたことを基に何度も話し合い共有することで理念を実現しようとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の拡大で地域の行事中止に伴い日常的な交流も途絶えがちだが、ゴミ収集場所問題話し合いの機会を提案したり、散歩中近所の方々と挨拶を交わし、小中高生たちと声掛けや世間話ができる地産所や喫茶店に利用者の作った粗品を置き配布している	通学路になっている道沿いの庭に毎年コスモスを植え近所の方や園児が見に来てくれる。園児が散歩の途中に芋掘りをした芋を持ってきてくれた。クリスマスには職員がサンタクロースになって保育園を訪問しお菓子をプレゼントしてお互いに交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型サービスで認知症の独居方、老々介護、若年アルツハイマーの方等の困難事例を受け入れ家族支援をし認知症の人の理解支援の実践を通じ地域還元している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	顔を合わせての会議は1日開催した。後は、議事録報告し新しい取り組みや工夫している所を発信している	区長や民生委員から、「身体を動かす機会があるといい」「自分の役割があるといい」との意見があった。庭でのティータイム、敷地内の蜜柑狩りなど外に出て身体を動かすことができるレクリエーションを増やした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	共用型デイサービス運営やブロック塀修理に関し補助金申請にアドバイスを頂いたり、浴室改修のホームの実情を伝え協力を仰いでいる	町の担当者から補助金で「ブロック塀をフェンスに替えること」や一般浴槽での入浴が困難である実情を相談すると「浴室改修ができること」を教えてもらうことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束禁止の対象となる具体的な事例について研修や職員会議勉強会で安全でかつ自由な生活を実現するため理解を深めるよう取り組んでいる。担当委員を選出しスピーチロック等の行動制限も拘束と認識し「その方の言葉を待つ」を指針としている。	事業所としてスピーチロックをなくすことを目標に取り組んでいる。新人職員はオンラインの外部研修に参加したり、施設内でも勉強会を行っている。職員同士の慣れ合いでお互いに注意できない関係にならないように管理者やリーダーが先頭に立って指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会へ全職員が受けられる様取り組んでいる。厚生労働省の定める権利擁護推進員養成研修に参加終了した職員を中心に職員への虐待防止強化を図っている		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の身の上看護人さんとは推進会議やホーム活動へ参加して頂き、関係者との必要な支援体制について常に連携をとっている。今後、理解出来るよう包括とも連携していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い理解の上契約を結んでいる。改定時には書面や面談を通じ理解を得る様努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との定期面談(年3回程度)ケアプラン更新時等には必ず家族利用者の意見要望を聞き、来訪のご親族ご家族からの意見を拾う様職員が心掛け、管理者へ連絡報告をする。昨年家族より布パンツ使用の希望があった方は、排泄状況などから支援方法を検討実践し移行できた	ケアプランの更新時以外に年3回程度の定期面談を行っている。今はコロナ禍のため、リモートや電話、手紙で家族の意見を聞いている。食事量の意見、入浴の確認、受診の対応などの意見が出された。家族と話し合う機会を持ち、支援できることを伝えてお互いに理解し合うことができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの議題提案書で声を上げてもらい、意見を吸い上げ職員会議で個々の問題について、カンファレンス、業務改善実践に繋げ検討、解決策、検証している。高齢化に伴い風呂設備の改修要望が出ており、来年度対応予定している	管理者は議題提案書で職員の意見を聞いている。その提案について話し合い3ヶ月間で見直し、結論を出している。デイサービスの利用者に関わってきた学びから、利用者の個々の生活も共同生活もどちらも大切であるという認識を共有することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価査定の個人自己評価から管理者、本部査定へ繋げる様整備されており個々の努力、実績勤務状況を把握し、やりがいのある職場作りの整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格制度、研修などの費用を法人で負担する制度がある。働きながらキャリアアップを目指す支援を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員レベルでのうららグループ他の業態の違う施設と交流しお互いのサービスへの取り組みについて相互理解を深める機会を持ちたいと思っている		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学、面談を行い、ご要望や心配な事等をよく聞き安心して頂けるよう努力。入所後も他者との関わりを持ち早く安心して生活して頂けるよう積極的にコミュニケーションを取り本人の思いを傾聴し関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談の際には、ご家族の意向や不安に対して聞き取りを行いホームで可能なこと、不可能なことを説明しご理解頂くよう努めている。入居後もお手紙や行事の写真などを送り報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を元に入居の際はご本人、家族の話をよく聞き、今何が必要かに焦点をあて、今後の支援も見通す対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事作業(洗濯たたみ、食器拭き、食事の下ごしらえ等)を行って頂きながら利用者の方が主体となり作業する時間を作るよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月職員からご本人の様子をお伝えする。手紙を同封させて頂いたり、面会時にお伝えすることで家族の方もご本人の状態の理解把握に努めて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい状況のため、外出や面会や頻回に行くことは出来ないが、少人数の地元へのドライブやリモート面会を利用して頂きながら関係継続の支援に努めている	家族から親族や馴染みの方の情報を聞いている。町の行事に出かけ、久しぶりに再会した方が訪ねてくれるようになった。元教え子から届いた手紙への返信は、職員が手紙を代筆し写真を添えて送る支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを見守りながら必要に応じ職員が介入しながら過ごして頂いている。利用者同士の共通の話題や興味を引くような話題を提供し楽しく過ごして頂けるよう努めている		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一職員としてサービス終了された方との関係を継続していくのは難しい。管理者は包括、居宅へ出向く際、その後の経過や情報の提供あればフォローしていく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が望んでいる生活を利用者同士の会話や職員とのコミュニケーションから、思いを把握しプランに反映している	「習字は一人で書きたい」思いを聞き事務所で書いてもらった。「昔勉強したかったけどできなかった」と話されパソコンに興味を持たれ自分の名前を打つことができ喜んでた。利用者の思いに添ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を元にどのような生活をされていたのか、望まれているかをコミュニケーションや日々の過ごし方を通し把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者の方の状況把握のため一人一人の方とコミュニケーションをとるよう努めている。その日の状態を記録に残し情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の変化に応じたケアを迅速に行えるよう課題が上がればその都度ミニカンファを行ったり情報収集に努めて改善しより良いケアの提供に努めている	家族との定期面談で意向の確認を行う。日常生活の中で本人の思いを職員が聞きプランに反映している。課題に対してはトライ&エラー(まず実践し解決できなければまた考える)を繰り返してケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員がその日のご様子や気づき等を個別記録に残し、全職員が目を通し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が困難な方に対する受診送迎や通所の方への必要なニーズを職員間で気づき話し合い、個別に支援に繋げている		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のいきいきサロン、お祭りに参加し日頃から顔見知りの関係を築いていたが今年はコロナでほぼ中止になった。保育園との交流は、芋掘りの手紙を頂いたり、こちらからはサンタのプレゼントにお菓子を配ったりした。チラシのゴミ袋を折り地域の商店に置いて無料配布している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族に添ったかかりつけ医を中心として受診連絡票で連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療が受けられるよう支援している。受診が必要な場合や希望があれば日程調整を行い職員が受診に付き添っている	入所後もかかりつけ医を継続できる。協力医の診察も受け体調管理を行っている。異常等があれば、受診連絡票を作成してかかりつけ医へ情報を提供し、その受診結果をフィードバックしてもらい情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、日常の関わりの中での気づきや変化を書面や口頭で伝え、適切な対応や助言を受けている。NSより糖尿病やインシュリン注射についての勉強会やPTから体操など定期的に設けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、医療機関へ出向くなどして状態を把握。担当NSとの情報交換を密に行うようにしている。環境の変化により認知症が進まない様面会等で支援、連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化及び看取りについて対応や指針を説明し同意を得ている。症状の変化に応じて主治医、訪看、家族、ホームで話し合いを持ち方針を共有しながら支援を努めている。意向確認シートは面談時や状況の変化に伴い付度も家族に確認しお能な限り希望に添うよう努めている	入居時に重度化及び看取りへの対応や指針を説明し同意を得ている。看取りの時期は主治医の判断によるが、家族の意向を踏まえ訪問看護、事業所の4者が話し合い、その後の方向性を決めている。事業所として、できるだけ最期までお風呂には入れてあげたい思いを持って看取り介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変時スムーズに対応出来るよう希望搬送先やご家族の連絡先再確認、緊急時の職員、招集は連絡網を通し定期的にデモを行っている(新しい職員が入った時など)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合い避難訓練、利用者参加で行っている。夜間の2階利用者の緊急避難方法を中心に、対応の助言をもらった。運営推進会議では自治会役員の方より夜間に避難時には応援に来ると言われている。災害時の備蓄は定期的に補充、点検を行っている	夜間2階の利用者の避難方法について消防署からベランダのある部屋に集めることの助言をもらった。その情報を自治会に伝え、協力を依頼し快諾を得ている。毎月定期防災訓練を行い、職員が感じた課題を洗い出し対応策を検討している。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意しているが、ネガティブな言葉なども言ってしまいがちである	廊下側からドア窓越しに部屋の中が見える。人によっては自分で暖簾をかけて塞いでいる方がいる。昼間、部屋にポータブルトイレがそのまま置いてある。	部屋のドア窓から中が見えなくてプライバシーの確保を努めていただきたい。昼間はポータブルトイレを部屋から撤去するまたは見えないような工夫を考えてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常よりコミュニケーションをとり本人の思いなどを引き出せるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にそってしまいがちではあるが、個々のペースや体調に合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て頂くことでも身だしなみに気を使われている(月1回の散髪)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りなどのお手伝い 里芋、みかんなどの収穫 食器拭き	誕生日や月2回のセレクトメニューを設定し楽しみを持つ食事としている。食事は旬のもの、具沢山の味噌汁、デザートは庭になる蜜柑を収穫し食卓を彩ることもある。職員と一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分補給 体重の変化への取り組み、栄養スクリーニング 嚥下体操の合わせた食事形態		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に行ってもらっているが、拒否された方には声掛けに工夫したり、職員を代えたりしている		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、各利用者の排泄状況を見て必要に応じて入浴前や食事前のタイミングで声掛け、誘導を行っている。紙パンツ→布パンツへ変える。入院されりハビリパンツになるも退院後は布パンツに戻される支援		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を見て、排便が数日見られない利用者様を把握し便通のよくなるお茶を提供したり、腹部を中心とした体操、レクで体を動かしていただく様声掛けをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴後は、化粧水やクリーム等のボディケアを行う事により浴後も気持ちよく過ごしてもら。その中での入浴時間帯は15時～夕刻食事前に設定していてタイミングみて順番を変えながらの支援	平均週に3回の入浴をしている。希望すれば毎日入浴することもできるし、夏はシャワーでサッと汗を流すこともできる。入浴剤は一番風呂の人に選んでもらっている。季節ごとに柚子湯やしょうぶ湯なども提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、夜間の睡眠状況により日中も居室やホール横にあるベッドにて休んでいただく定期的な空調管理、シーツの交換、干しを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があった場合は、申し送りファイルで情報を共有、職員は毎日確認する。症状の変化気づきあればケアマネ、ホーム長→訪看、かかりつけ医と連絡連携とっていく		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとに季節に沿った行事、食事を行ったり連携している福祉系大学の学生さんとの交流、レクを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブに行く。ホーム内や庭で開放感のある行事(庭にテーブルを置いてお茶会)を行っている。個別に(庭に出たい、洗濯物が気になる等)希望ある時は出来る限り職員が協力し添う支援している	コロナ禍のため人のいない場所にドライブに出かけている。気候の良い時は、庭にテーブルを出してお茶を楽しみ、外出気分を味わっている。散歩の途中に和菓子屋さんに寄ってお饅頭を買ってくることもある。顔なじみのためおまけをしてもらい喜んで帰ってくる。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で所持されている方もみえる。お小遣いを預かり衣類や靴などを購入しに外出することがある。使途については毎月お小遣い帳をコピーし領収書を送付している。残金が少なければその都度家族に連絡補充してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯電話を使用している方もみえる。希望があれば電話を繋ぎ、話しをして頂ける様支援している。現在はオンライン面会を行い、遠方の家族とも会話が出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床の間や玄関、ホール内、居室に生花を飾り季節を感じて頂いている。ソファを置いて思い思いに過ごせる場所を作っている	リビングの床の間には生け花が飾ってある。利用者の願いを込めた絵馬や書初めの習字、今までに出かけた思い出の写真が飾られている。レクレーションでは旬の果物(本物のマスカット)を洗濯ばさみにつるして収穫気分を味わう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当たりの場所にソファを配置し静かに過ごせる空間を作り自由にテレビを見られるようにしている。気配を感じながら休めるようベッドを置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族様が相談し、テレビ、タンス等使い慣れた物を配置されている。家族写真や手紙、花、自作に飾りを置き居心地の良い空間作りをしている	居室には好きな物を持ち込むことができる。夫や孫の写真、娘さんに送ってもらった天皇の写真を飾ったり、使い慣れた布団を使っている。段ボールで作ったタンスには壁紙を貼って自分の好みにアレンジして使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターを自由に使用し自室へ行くことが出来る。見守り、声掛けを行い、居場所確認をし手すりを使用。自立歩行が出来る様支援している		